

「つながり」に気づき、自分から始めよう

主な内容：地球環境と人権

従来型の開発は、物質的な豊かさをもたらす一方で、環境破壊や貧富の格差拡大、人権侵害など、多くの問題を生み出してきました。将来の世代を含む世界中の人々が、安心して暮らせる社会を構築するために、環境保全、経済開発、社会発展をバランスよく保つ、新しい開発が必要とされています。しかし、多くの人があるのに、社会はなかなか変わらないという現状があります。

「地球市民」として、「持続可能な社会」の実現に向けて、何が大切なのかを考えてみましょう。

●研究課題

(1) 地球温暖化に関するデータや資料を集めてみましょう。

【ポイント】

- ・国際連合の活動など、地球温暖化防止に向けた地球規模での取組を調べてみましょう。
- ・地球の気温変化の推移と産業革命などによる生活の変化を時間軸で整理し、関連付けてみましょう。

(2) 生物多様性保全に関するデータや資料を集めてみましょう。

【ポイント】

- ・生物多様性の危機について、環境問題、特に、地球温暖化との関連から考えてみましょう。
- ・地域の里山やため池など、生物多様性保全の活動が行われている所を調べてみましょう。

●活動課題

(1) 「高校生就業体験事業」などの機会に、「循環型社会」の実現に向けた事業所の取組を聞いてみましょう。

【ポイント】

- ・話をもとに、「企業の社会的責任（CSR）」について考えてみましょう。
- ・「持続可能な社会」の構築と職業との関連について話し合ってみましょう。

(2) 地域で、「持続可能な社会」の実現のために活動している人や活動を支援している組織などを訪問してみましょう。

【ポイント】

- ・活動している人の思いや願い、活動内容を聞いてみましょう。
- ・話をもとに、「地球市民」として自分たちの「地球憲章」を作ってみましょう。

●ケーススタディ

記事を参考にして、エネルギー問題などの地球環境問題が自分たちの日常生活にどのような影響を与えるのかを話し合ってみましょう。

《 地球温暖化防止をーポートタワーや姫路城も消灯ー 》

夏至の21日夜、地球温暖化防止のため環境省が呼び掛ける「ライトダウンキャンペーン」が全国で実施された。兵庫県内では、明石海峡大橋や姫路城など観光名所のほか、民間企業のオフィスなど約2,500カ所が照明を落とした。

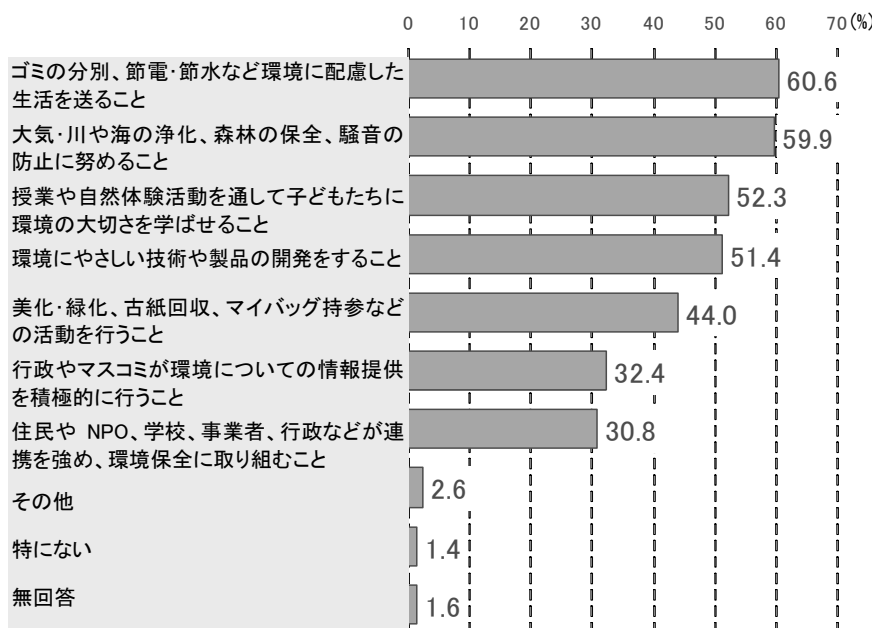
通常はライトアップされている施設が照明を消すことで、多くの電力を使っていることを実感するのが狙いで、2003年に始まった。年間を通して夜が最も短い夏至と、七夕の7月7日の午後8～10時に消灯を呼び掛けている。

神戸市中央区の神戸港では、神戸ハーバーランド・モザイクの観覧車や周辺のホテルなどが一斉に消灯。神戸ポートタワーは省エネルギーの発光ダイオード（LED）も消して、つかの間のやみ夜を演出した。

（神戸新聞Webニュース 平成22（2010）年6月22日付から）

●人権に関する県民意識調査

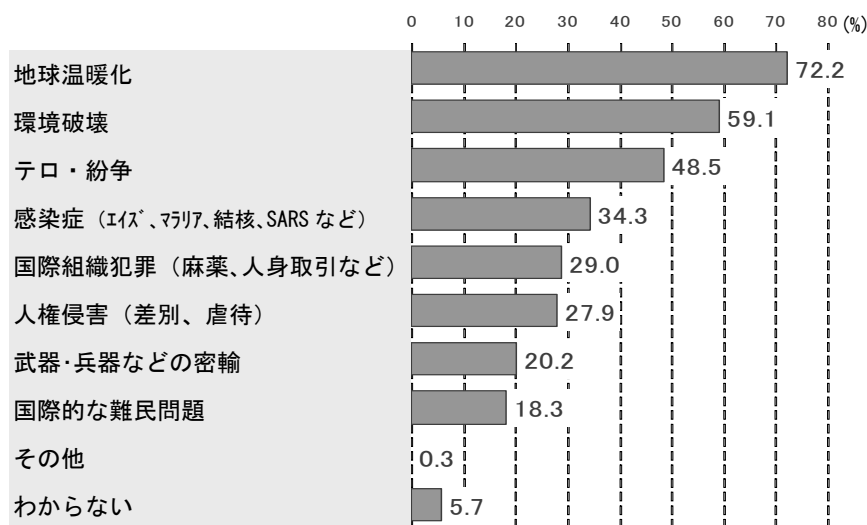
私たちが「健康で文化的な生活」を送るために、環境に配慮しながら自然と共生していくことが求められています。そのために、現在、あなたはどのようなことが特に大切だと思われませんか。（複数回答）



(平成20(2008)年 兵庫県・財団法人 兵庫県人権啓発協会)

●地球規模問題に関する意識調査

次にあげる地球環境問題のうち、日常生活の中であなたが深刻に感じている問題は何ですか。この中からいくつでも選んでください。（複数回答）



(平成17(2005)年 外務省)

●自然との共生【コウノトリ】



県立コウノトリの郷公園及びその周辺では、コウノトリを核にして、人と自然が共生する地域づくりが進められている。

キーワード解説

▼ 人間環境宣言 [昭和47(1972)年]

「国連人間環境会議」で発表された宣言である。自然のままの環境と人によって作られた環境は、ともに人間の福祉、基本的人権ひいては、生存権そのものの享受のため基本的に重要であり、現在及び将来の世代のために、人間環境を擁護し向上させることは、人類にとって至上の目標であるとした。

▼ 持続可能な開発

昭和62(1987)年に、「環境と開発に関する世界委員会」が公表した報告書「われら共有の未来」において提起された概念で、「将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発」を意味する。その取組にあたっては、環境保全や資源の過剰利用の抑制の視点とともに、貧困の克服、保健衛生の確保、質の高い教育、性・人種による差別の克服等への配慮が必要とされている。なお、平成17(2005)年からの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年」として、持続可能な社会の実現に向け、国際的な取組が行われている。

▼ 3R

環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワード。「環境型社会形成推進基本法」[平成12(2000)年]では、優先順位を①「Reduce : リデュース (減らす)」、②「Reuse : リユース (繰り返し使う)」、③「Recycle : リサイクル (再資源化)」とした。「新兵庫県環境基本計画」[平成14(2002)年]では、「Refuse : リフューズ (不要ものの受取拒否)」、「Repair : リペア (修理して使う)」を加えた、「5R」生活の推進が提唱されている。

▼ 気候変動に関する国際連合枠組条約

[平成4(1992)年]

世界は、国際連合のもと、「人間環境宣言」を踏まえ、気候系に対して危険な人為的干渉を及ぼすこととならない水準において大気中の温室効果ガスの濃度を安定させることを究極の目的として、本条約を採択した。

▼ 生物の多様性に関する条約

[平成4(1992)年]

世界は、国際連合のもと、「人間環境宣言」や「環境国際行動計画」等を踏まえ、地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること、生物資源を持続可能な方法で利用すること、遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ公平に配分することを目的として、本条約を協定した。

これに基づき、日本では「生物多様性基本法」[平成20(2008)年]が制定された。

●関係機関等

- (1) 独立行政法人 国立環境研究所
<http://www.nies.go.jp/>
- (2) 財団法人 環境情報普及センター (EIC)
<http://www.eic.or.jp/eic/>
- (3) 環境省
<http://www.env.go.jp/>
- (4) 財団法人 ひょうご環境創造協会
<http://www.eco-hyogo.jp/>